祇園底抜屋台巡行・引き合せ

飯能夏祭り

飯能市無形民俗文化財「飯能の底抜け屋台行事」

見どころまっぷ
底抜屋台紹介

令和七年
7/12(土)13(日)

観光アンケート実施中

QRコードを読み込んで、WEBアンケートにお答えください
アンケート回答者の中から、抽選で素敵な景品プレゼント!

実施期間
2025年
12月末日まで

飯能市民の方 ➡

市外在住の方 ➡

■主催/飯能夏祭り実行委員会
■後援/飯能市商店街連盟・奥むさし飯能観光協会・飯能商工会議所・飯能諏訪八幡神社
■協賛/国際興業バス・西武バス・飯能大通り商店街・飯能中央通り商店街・
飯能銀座商店街・飯能消防団第一分団、第二分団、第三分団
■お問合せ/一般社団法人奥むさし飯能観光協会(042)980-5051
・飯能駅観光案内所/ぷらっと飯能 ☎(042)978-9111
・飯能観光案内所/お土産ショップ「夢馬」☎(042)974-7900

奥むさし飯能観光協会HP

令和七年 飯能夏祭り

見どころまっぷ

交通規制情報

7/12(土)夕方5時から夜9時(17:00~21:00)にかけて全車両通行禁止(除/緊急車両)
7/13(日)正午から夜9時(12:00~21:00)にかけて全車両通行禁止(除/緊急車両)
・大通り~中央原町商店街(飯能河原交差点から東町交差点まで)
・銀座通り
・高麗横町(仲町交差点から小松屋商店南T字路まで)

12日(土)宵宮

八坂神社祈願祭 Ⓐ

飯能八坂神社境内では午前11時45分より一丁目・二丁目・三丁目・河原町・宮本町・柳原の自治会長ならびに観光協会会長や商店街連盟会長ら協賛後援団体代表が参列し、神社世話人の介添えのもと松本富美男神主による祈願祭が執り行われます。

底抜屋台の町内廻り

各町では朝の9時ごろより底抜屋台による町内廻りが始まり、威勢のいいお囃子を一軒ごとに奏す邪気払いの門付け(かどづけ)を行ないながら、終日町域を曳き廻します。(21時まで)

関連催事

街をいろどる軒端飾り(のきばかざり)

夏祭りのメイン会場となる大通り商店街・中央通り商店街・銀座商店街では、祭り1週間ほど前から各店沿いに揃いの提灯を飾って、お祭りムードを引き立てます。祭り両日は夜になると提灯に灯が入り、いっそう雰囲気を盛り上げます。

宮神輿・曳太鼓 飾り置き

祭礼の両日、八坂神社境内には昭和6年に奉納された宮神輿と曳太鼓が飾り置きされます。

13日(日)本祭り

八坂神社宮参り Ⓐ

午後1時、八坂神社前に6ヵ町が集合整列し、1町内ずつ屋台を神社に向けて祝囃子を奉納します。続いて各町役員・囃子連等による神社参拝が行われます。

八坂神社前引き合わせ Ⓐ

午後1時50分から神社入口前の大通りで 6ヵ町による引き合わせが行われます。

広小路引き合わせ Ⓑ

午後2時40分から8ヵ町による引き合わせが10分間開催されます。

当番町挨拶(広小路) Ⓑ

中央通り引き合わせに続いて午後3時頃、本年の当番町宮本町と各町が順番に向かい寄せて囃子の交歓を行ない、その後自由運行に移ります。

銀座通り引き合わせ Ⓒ

自由運行後の午後4時20分からは、銀座通り伊勢屋を中心に8ヵ町が集結して引き合わせが行なわれます。

大通り引き合わせ Ⓓ

休憩をはさんで午後7時40分からは、大通りに位置する夏祭り本部を中心にした引き合わせが中山と本郷を加えた10ヵ町で執り行われます。

高麗横町入口(仲町)・広小路引き合わせ ⒺⒷ

最後に午後8時10分より、大通りにある二つの交差点で引き合わせを行ない、各町底抜屋台は帰路につき、飯能夏祭りは終わりを告げます。

底抜け屋台行事が無形文化財に

後世に残す価値ある祭事

飯能市教育委員会は飯能市文化財保護審議委員会の答申を受け、夏祭りで催行する底抜け屋台曳き廻しを「飯能の底抜け屋台行事」として令和六年『飯能市無形民俗文化財』に指定しました。

江戸天下祭りが発祥の底抜け屋台行事は、明治の初め入間西部より双柳に初めて伝授され、以来市街地を中心に伝播していきました。現在16の団体で保持され、今後も順調に継続していく見通しです。床無し歩行演奏や、朝顔状に拡がる市松障子装飾には底抜け屋台の特性がよく残り貴重であること、各地で廃れた底抜け屋台行事が唯一飯能で多数現存し盛行なのは、飯能の地域特性を表し重要であること等が評価され、郷土の誇る祭礼行事と認定されました。

一丁目、二丁目、三丁目、河原町、宮本町、原町、前田、柳原、中山、双柳、本郷、平松、浅間の13団体で「飯能底抜け屋台行事保存会」を設け、保存伝承に臨みます。

本　郷

建造当初（平成２６年／2014）よりLED照明搭載の現屋台は2代目で、町内ゆかりの細田建設（双柳）の施工。

前　田

昭和55年（1980）、建喜代（二代/加藤登）の作。朝顔型亀の尾部に「てるむくり」を、囃子座には「勾欄」を採用した画期的な屋台。

一丁目

昭和25年（1950）、市川多十、矢島吉三ら（当町）により建造。腰周りを柴垣で囲む古風な装いが特徴。

中　山

銅板葺き唐破風屋根が特徴の現屋台は新久、野田、双柳屋台の系譜で、平成18年（2006）中山大工組合の作。

柳　原

平成2年（1990）、平成の大嘗祭記念に森住建築の手により建造。他町よりも軒提灯が数多く吊るされている。

二丁目

昭和25年（1950）、建喜代（初代/加藤喜代次郎）の作。令和4年（2022）、腰周りを柴垣に、軒提灯を一重にするなど建造当初の様式に復原改修。

河原町

3代目の現屋台は、平成27年（2015）荒木社寺（秩父市）により建造。天井に代用萩を用いる等こだわりが随所に。

三丁目

戦前建造の初代から数えて3代目の現屋台は、平成15年（2003）宮倉棟梁（上畑）の作。提灯にはバッテリー照明を搭載し環境にも配慮。

原　町

昭和10年（1935）、20年（1945）に続く3代目は、56年（1981）福田工務店（原町）による標準仕様の底抜け屋台。

宮本町

繊細で緻密な欄間彫刻が特色。檜を主体とした屋台随所に錺金具が施されている。平成8年（1996）土屋工務店 宮寺喜一棟梁の作。

夏を呼ぶ飯能夏祭り

飯能市街地の夏の風物詩「飯能夏祭り」は、飯能夏祭り実行委員会（委員長＝柳内悦宏三丁目自治会長）が主催し、本年の当番町／宮本町自治会（小久保優会長）が屋台巡行等を執り仕切ります。

7月12日（土）は宵祭りで底抜屋台の各町内廻り、13日（日）は本祭りで底抜屋台の市街地巡行・引き合わせが行われます。

※中山・本郷屋台は13日夜参加。

伝統を受け継ぐ祭り

大通り西端に鎮座し、「三丁目のお天王さま」の愛称で親しまれている飯能八坂神社は、牛頭天王＝素戔嗚尊を主祭神とする個人宅の屋敷鎮守でした。昭和に入って5ヵ町（一・二・三・河・宮）で祀るようになると、社殿や石鳥居、宮神輿や曳き太鼓などが整えられるとともに、祭礼も疫病退治・厄災退散を願う夏祈祷に合わせて、宮神輿の町内渡御を行う活気あふれるものになりました。

その後戦時中の中断をはさんで、戦後、祭礼は各町底抜屋台の巡行に変わり、昭和後半になると、住民の生活様式の変化にともない祭日を7月14・15日から15日に近い土曜・日曜日に改めました。平成11年（1999）「飯能八坂神社例祭」から「飯能夏祭り」に名称および組織を変更しています。

現在では一丁目・二丁目・三丁目・河原町・宮本町・柳原・原町・前田・中山・本郷の10ヵ町の底抜屋台が曳き廻される、8万人の見物客とたくさんの露天商で賑わう盛大な祭りに成長し、秋の飯能まつりとともに「飯能二大祭り」と称されるようになりました。

邪気を払う祇園囃子の音

飯能夏祭りの底抜屋台で披露される祇園囃子は、原則として笛×1、附締太鼓×2、大太鼓×1、擦り鉦×1の5人1組で演奏する祭り囃子の一種です。大太鼓は、秋の飯能まつりの山車で演奏する屋台囃子に比べ、打面の直径が2尺（約60㎝）近い大きなものを使用します。

飯能地区へは双柳や入間市西部の野田、高倉、新久などより伝わったといわれ、三丁目や原町などは戦前から、他の町内は昭和20年代前半から底抜屋台を建造して祇園囃子を始めました。現在飯能市街地の囃子連は、秋の屋台囃子と夏の祇園囃子の2つの異なるお囃子を保存・継承しています。

曲目は、町内廻りなど屋台の巡行中に演奏するチャンチャリーコ、昇殿崩し、ノーエ節や流しといったゆっくりで賑やかな道中囃子と、門付けや引き合わせなど屋台が立ち止まったときに奏される、激しいリズムのシャンギリという曲に大別されます。

特にシャンギリは、威勢のよい大太鼓の響きが印象的で、邪気を払い福を呼ぶものといわれています。

【飯能夏祭り見どころマップ 令和7年7月13日号】
■編集・発行/一般社団法人奥むさし飯能観光協会
■協力/原南帆、市村敏行、祭禮技術研究所、入口社中　■禁無断転載

■祭礼期間中、交通規制や屋台巡行により周辺道路は渋滞が予想されます。公共交通機関をご利用いただくか、自動車は迂回願います。
■祭礼開催区域は大勢の方で混雑します。安全確保のため自転車は押して、ベビーカーは十分注意して通行してください。
■市内は路上駐車禁止です。駐車場をご利用ください。